

平成27年度第4回たつの市総合教育会議次第

と き 平成28年3月7日（月） 午後3時30分

ところ たつの市役所分庁舎第3会議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1)「学都たつの」を目指す平成28年度予算について
  - (2) その他
- 4 閉 会

平成27年度第4回たつの市総合教育会議会議録

と き 平成28年3月7日（月）

午後3時30分

ところ 分庁舎第3会議室

部長

定刻となりましたので、ただ今から、平成27年度第4回たつの市総合教育会議を開催いたします。開会に当たりまして、市長から御挨拶をお願いいたします。

市長

教育委員の皆様におかれましては、平素からたつの市教育行政に積極的に御協力賜っていることに心から感謝申し上げます。今回は第4回目となります。第1回目は教育の大綱、会議の進め方について、第2回目は教育に係る施策の充実について、第3回目は平成28年度の予算要望並びに教育に係る施策の充実のうち、揖龍教育研究所の充実とふるさと教育の充実について、御審議いただきました。本日の総合教育会議では、主に予算編成について、記者発表資料を基に、教育に係る施策の状況を確認したいと思います。古来から教育の最終目標は人格の陶冶と申します。すなわち、人間形成、人格形成にしっかりと努めてゆくことが教育の最大の役割でございます。たつの市の教育がより一層充実するよう御協力を賜りたく、お願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。

部長

ありがとうございました。続きまして、次第により協議を進めたいと思いますが、ここからの会議の進行は市長にお願いしたいと思います。市長、よろしく願いいたします。

市長

それでは、進行役を務めさせていただきます。初めに会議の公開又は非公開につきまして、皆様にお諮りしたいと思います。たつの市総合教育会議設置要綱第6条に基づき、本会は個人の秘密を保つ必要があるとき、会議の公正が害される恐れがあるとき、及びその他公益上必要があると認める時以外は公開するものとなっております。さらに、たつの市教育委員会会議規則に準じた取扱いを行うこととなっております。本日の案件につきましては、設置要綱の定める非公開とする事柄に該当せず、公開とすることが適切であると思われまます。賛成の方の挙手を求めます。

< 挙手 >

市長

挙手全員でございますので、公開と決定いたします。それでは、次第に基づき、協議事項に入ります。

(1)「学都たつの」を目指す平成28年度予算について、説明を事務局から願います。

< 教育長 資料に基づき説明 >

市長

ただ今、教育長から平成28年度予算の事業につきまして、主な新規事業、拡充した継続事業等について説明をいただきました。この件につきまして、どなたからでも結構でございますので、御意見がございましたら、御発言をお願いします。

委員

来年度への政策化は難しいかと思いますが、申し上げます。20番の放課後児童クラブ事業にこれだけの予算が計上されていますが、私も子育て世代であり、お母さん方から意見をお聞きしますと、市内では御兄弟で3~4人のお子さんのある家庭もあるようで、そういったお母さん方は働かなくてはいけない事情もあり、ぜひ、放課後児童クラブに入れたいのですが、放課後児童クラブに月々にお支払いする金額が結構な額になっているのと、2人目3人目になった時の利用料の助成が無いので、1人1人にまるまるお金がかかります。3人預けると2~3万円と高額になり、放課後で時間が短い割に結構な額になってきます。あとは、6年生まで預けられるようになってすごく良いという御意見もあります。1年生から6年生まで一緒に部屋にいるのでそこで大きい学年の子が小さい学年の子をお世話するという経験も良いかと思いますが、5・6年生になると集中して宿題などをしたい時もあります

が、そういったときに低学年の子が騒がしいと、その時間が取れなくなります。空き教室を利用する関係から難しいかもしれませんが、放課後児童クラブの質を高めるための配慮なり工夫を検討いただければと思います。

市長  
部長

現状はどうか。

通常、7月・8月以外は月8千円、7月は夏休みの関係もあり、月1万円、8月は月1万6千円となっています。ただし、夏休み期間中は朝から子どもさん達を御預かりするので、その分、料金も高く設定しています。2子3子への助成措置は、現在、国の施策に則った事業での運営をしており、助成制度につきまして、仮に実施するならば市の独自の事業となります。今のところ、そのような形での運用はしておりません。

市長  
委員

今、そういった要望が強いということですか。

1万6千円とか1万円を3人となると、お母さんの給料があつという間に無くなってしまいます。

市長  
部長

多子世帯の放課後児童クラブの利用は多いのですか。

1年生から3年生までの児童に関し、全体的な比率から申しますと、たくさんの子ども達を受け入れしています。しかしながら、拡大しました4年生、5年生、6年生におきましては、逆にスポーツに特化したり、塾に行かせたりとかで、お預かりしています子ども達の比率は逆に減ってしまっているのが実情です。当初は、我々ももっと増えるであろうと予想していましたが、逆に6年生の子どもさんは1名だけ御預かりしている状況です。人数的に4年生、5年生、6年生の子どもさんの比率は少ないです。

市長  
委員

いずれにしても、女性が活躍していただかなくてははいけませんので、検討をお願いします。他に御意見はございませんか。

30番の中央学校給食センターについて、前回の教育委員会定例会の終わった後、視察させていただきました。お金をかけるだけに、立派なものが出来つつあります。他と比べることではないと思いますが、教職員の研修が姫路市の教育研究所でありましたが、姫路市では市単独で立派な研究所を持っていますし、優秀な研究に当たって図書券ですが、商品が出たようです。本市の研究所は建物も野暮ったく、中身も職員1人ですし、先生方を奮起させるような事業も取り入れ、箱物だけではなく、中から充実していくことを今後、お願いしたい。

市長  
委員

ご要望として、お受けいたします。他にございませんか。

資料から、国の税収が伸びているということは分かりました。県内、あるいはたつの市の税収がどのようになり、そしてその伸びている、あるいは使われている予算の中で、一般会計の中の教育費の予算の比率をお聞きしましたが、これが、他市と比較して高いのか低いのか、予算を多く使えるということは教育も施設の問題もそうですし、人的な先生の人数もそうですし、予算を多く使えるほうが充実した教育ができるのかと思いますが、本市の教育費について、教育を充実させるとなると、予算的に配慮していますということが良いのですが、そのあたりはどうでしょうか。

部長

税収の問題ですが、10頁を御覧ください。歳入の市税について、これは1人当たり換算ですが、市民税に若干の所得の伸びがあります。法人・市民税につきましては、国の制度改正により減っていますが、法人そのものの勢いはそれほど悪くないと聞いています。固定資産税関係につきましては、例えばある企業の償却資産が増えており、固定資産税は増えています。たばこ税、都市計画税、入湯税など、市税につきましては、昨年と比べ増えています。ただ一般的に言いますと3割自治ということをお聞きになっておられると思います。本市は平均的な自治体だと思います。一方、教育費につきましては、これまでも耐震補強とか、施設の改修によって多寡も変わってきていますので、この表から見ますと、教育費そのものは昨年度から比べますと若干、減っています。ただこれは、いわゆる施設の耐震化がほぼ完了し、残った耐震診断の実施設設計だけとなっていますので減っていますが、実質的にはそんなに減ったわけではございません。むしろ、昨年度の総合教育会議のなかで、トイレの問題であるとか大規模改修の問題であるとかを積極的に取り入れていますので、そういった意味では増えているのではないだろうかと思います。また議会でもよく言われるのですが、普通交付税が大体15～16億円入ってきますが、教育費に30億円を使っていますので、他市町よりも教育には多く予算を使っているのではないかと思います。一方、今後は施設整備が計画的に完了すれば、ソフト事業に力を入れたいという形で、この度も新たなソフト事業でお母さん方から要望のあ

りました子ども未来応援塾事業があります。塾が無い地域があるため、何とかしてほしいという市民の声をお聞かせいただき、来年度にどうすればよいのか制度設計をしようという試みを挙げています。市民の声が市政に反映するような施策の展開が図られていると感じています。

委員長

●●教育長となって2年が経過し3年目に突入したのですが、私の個人的な見解から申しますと、もっと積極的に●●教育長ならではの教育施策を強力に実施していただきたい。●●教育長にしかできない教育というものがあると思います。そのための教育長ですので、いささか厳しい意見で申し訳ないのですが、そろそろ旧態依然とした事業ばかりではなく、しかも、市長から我々に下されている大命題は「学都たつの」であり、もっと学力を付けさせなさいという御意見を拝聴したと思います。それをもっと真摯に受け止め、誠実に忠実にやっていただきたい。ちょっと手ぬるい。今、中学生は高校受験の真っただ中で、たつの市内の中学校から第4学区の高校を受けるのですが、その中で残念ながら学校の順位はあります。昔から学力の順位はありますが、上位校にどれだけ入ってゆくのか、一つの指針として、また、子ども達が真に望んだ学校へ高校受験がスムーズに出来るという体制を敷くことが我々の任務の一つではないかと思えます。それに対して、教育研究所の充実などがありますが何も反映されていない。大切な税金を預かって施策を展開しているのだから、もっと職務に精励し忠実に励んでいただきたい。そうしないと、信頼関係が失われます。もうそろそろ、●●カラーを前面に出して、教育現場の生の声を聞き、出来ることから構わないので、何からでも手がけて強力に推進してほしい。例えば、受験でも保護者の間では、今は混とんとしています。学区再編のデータを持ち合わせていないので、その部分を教育研究所が資料やデータを集めて一助となるよう、誠実にお願いしたい。幼稚園の再編に当たっても丁寧な説明をお願いしたい。教育現場や子どもが混乱しないようにしてほしい。「学都たつの」について、私は非常に深く受け止めており、我々教育機関であるため、勉強させなくてはなりません。それに対して、何も出てきていない。過去の例で言いますと、たつの市オリジナルの夏のワークを作ったりしていました。いささか厳しい意見を申し上げましたが、もっともっと、教育長に頑張ってください。

市長

子ども達にとって素晴らしいことは何かということを念頭に置いて、やっていただき、子ども達が主役の教育環境づくりをお願いしたい。

教育長

今、非常にありがたい意見をいただきました。現場の状況をしっかりと把握させていただいて、見える化といいますか、目標もしっかり持って今後、一所懸命取り組んでいきたいと思えますし、総合教育会議も4回目となり、他市町に比べ回数が多いですが、その1回1回が非常に貴重な機会でもあり、いろんないい意見もいただいているながら、研究所のこともそうですが、なかなか、形として会議や、また予算の中に反映しきれていない状況に反省もしております。それらも含め、また頑張りたいと思えます。ありがとうございました。

委員

委員長が言われた件に関連し、大学研究に関係するようなので、発言したいのですが、公衆衛生のところ、全体的にその地域が例えば、成績でも高めようとするときには、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチという2種類の方法があります。ポピュレーションアプローチとは、ポピュレーションとは全体なので、全体の平均を上げるという手法、ハイリスクアプローチというのは、下位にいる人たち、ハイリスクの人たちを上げるという方法となります。その中で、資料の中の事業を見せていただいて、ハード面のところで故障が出てきたり問題があったりした場合、そこを補うような施策がされていると思えますけれども、主に見るのがハイリスク、資料の22番の子ども未来応援塾のようなハイリスクの方々に対してのアプローチをメインにされているのだなと感じました。「学都たつの」を達成しようとしたときに、まずは下位にいる問題のある方々を先に平均点を上げる、学力を上げるという所に最初に取り掛かるようになってきているのかなと会議を聞かせていただいて思いました。「学都たつの」を達成するに当たって、全体のところの学力を上げる手法とハイリスクの方々に対しての学力を上げる手法と、同時進行の方法でないと、「学都たつの」を早期に達成しようとするのは難しいのではないかと思います。ハイリスクの方々への事業はあるので、全体的にたつの市の平均が上がるような施策を考えるほうが良いのではと感じました。

市長

「学都」という意味合いから、全体の底上げと思えますので、全体の底上げがしっかりできるような、施策を展開しなければと思います。このきめ細かな教育推進

事業をもっと充実しなければいけませんね。それでは、もっと具体的にこういう施策が底上げになるということがありましたら、御提言をよろしく申し上げます。

他に平成28年度予算につきまして、御意見が無ければ、(2)その他に移りたいと思います。

その他につきましては、認定こども園と関連する「たつの市幼稚園・保育所再編計画」、加えて、「たつの市公共建築物再編実施計画(案)」についてを議題したいと思います。報告をよろしく申し上げます。

< 教育長 幼稚園・保育所再編計画を資料に基づき説明 >

市長

ただ今、「たつの市幼稚園・保育所再編計画」について、報告を受けましたが、どなたからでも結構ですので、御意見をお願いします。認定こども園化が今年度始まったばかりですので、その良さを理解していただくにも少し、時間が必要なのかとも思います。

委員長

定例会でも何度も話していますが、統合される方は良いですが、廃園となるところの子ども、保護者、地域に丁寧な説明をして、丁寧な対応をお願いしたい。

教育長

今、保護者にしてみても、2年後、3年後と方向性が見えてきてこそ、安心して子どもを預けられますし、どうなるのかわからないのでは困りますので、こども園推進室とも話を順次進めており、本年度の募集時には間に合わなかったのですが、次年度の募集時には継続して検討すべき事柄のうち、検討の内容を判断すべきある程度の数値を出さなくてはならないという話をしていますし、その方向で考えています。ただ、河内・室津をどのように考えるかが、他と違う課題だと考えています。

委員

今年度1年間、こども園を実施してきました。その内容について、しっかりと検討していただきたい。教育とは儲かるものではなく、税金を投入して実施することが、大事な部分です。それが、こども園になり私立になると、人数とか設備について予算がないからといったことが多分に出てくると思います。今まで、幼稚園教育として行われてきたことが、予算や人的にできないとなると、当初の目的に反すると思います。1年目ですから、しっかりと検証していただいて、正すべきことは正し、最終学年が義務教育に行ったときに戸惑うことなくスムーズに小学校に入学できるように、そういうことをしっかり見届けていただきたい。

市長  
委員

その他に御意見はございませんか。

私立の保育園はいくつかありますが、100人体制の保育所があるところもある中、公立が二けたのところもあり、お母様方が私立を選ばれるということを実感せざるを得ない状況です。その中で、公立のこども園をどういう目的で、どういう所をセールスポイントとして、私立と違ってどこを強調して運営するのかという部分で、私立とは違う公立が持つ意味を明確にしないと、難しい問題になるのではないかと思います。

市長  
委員

現場の先生方の努力に負う所が多いですね。

今、言われていることは非常に難しい。保護者が何を基準に選択しているのかは、私の経験から言いますと、見た目ばかりが優先されています。教育の本質である所は非常に地味で、保護者にアピールするところがあまりありません。教育の本質から言いますとごもつともなことです。鼓笛しています、サッカーしていますといったことに飛びついてしまい、皆そちらに行ってしまう。実際、それが小学校に入った時にどれだけ役に立つかは、取り立てて感じなかったことを目の当たりにしています。だから、公立の良さなどをアピールすることは幼稚園の教員には至難の業です。

委員

都会では公立のところは普通の家庭が望まれることが多く、私立はまた違う家庭が選択されることを聞くと、新宮のこども園は100人体制で、私立に行こうと思えば行くこともできますが、地元のほうでといった部分もあり、市立が無くなって寂しさもあり、それがセールスポイントにならないかなと思います。

市長

園区は無くなったので、待っていれば良い状況ではなく、待つよりも教育環境の質の高さを競い合うことが望まれますので、必然的に園長に求められることとなります。目立つだけではなく、大切な部分である、真の教育者の能力が問われますね。

委員  
市長

先生が切磋琢磨するようになってくると実感します。

雰囲気が変わってきていると思います。子ども達にとって何が良いのかという観点からすると、ちょっとずつ、変わってきていると思います。

教育長 学力的な部分が幼稚園でも求められ、英語や音楽をされたりといった部分に力を入れて目立つ幼稚園と、非認知的な部分として道徳的な気持ちの部分やコミュニケーション力などの部分に力を入れている幼稚園など、公立の幼稚園の場合、学力的なものや目立つ部分ではなく一生懸命話し合いをする時間を取ったり、お互いが認め合うような事柄を一生懸命取り組んだり、あまり派手さは無いのですが、それが小学校に行ったら、友達と一緒に頑張る力とか、伸びる力になると思います。そのため、保護者も判断が非常に難しいと思います。

市長 他に特にございませんでしょうか。それでは、無いようですので、次の「たつの市公共建築物再編実施計画（案）」についてを議題といたします。報告をよろしくお願ひします。

＜ 教育長 公共建築物再編実施計画を資料に基づき説明 ＞

市長 ただ今、たつの市の公共建築物、特に小中学校等の施設について、考え方の報告を受けました。この件につきまして、何か御意見はございませんか。●●委員、小学校で100人を切る場合、教育環境として、どうですか。

委員 私の母校でも、私の在学中は300人位でしたが、今は30人から40人です。どこで線を引くかは難しく、教育は人数が少なくではできないのかといえそうですが、集団としてある程度の人数がいないと困るという部分もあります。私も教員としてマンモス校から小規模校も経験しました。教育としてどちらが良かったのかといえ、両方とも良い面、悪い面があります。その人によってどう感じるかです。

市長 委員 でも、その人によってと言い続けるのも難しいですね。

行政という立場から言いますと、年数が経てば修繕しないといけませんし、維持しようと思えばそれなりの予算が必要となります。本当に難しい問題です。それこそ、腹くくって掛からないとどうしようもないし、どれが正論であるかは言えないと思います。

市長 何か、御意見はございませんか。

委員 教員の採用は県ですね。

委員 県採用です。

委員 学校数に見合っって新人教員を採用するとなるでしょうが、少ない児童数でも教員採用はされますね。

委員 企業でもそうだと思いますが、必要人数に応じて採用するのであって、年齢構成に段差ができています。

委員 割と高齢のいびつな図を見たことがあります。

委員 計画的に採用されるのが理想です。

教育長 ある程度、数字的な部分を出しながら、学校によってその数で良いのかどうかは、学校を判断する上で地域力というものがあると思います。ある程度の数字を出しながら、地域と話をすることも必要かと思ひます。今、適正規模・適正配置として教育委員会でもある程度の形を出していかなくてはと思っています。

市長 検討委員会を作りますか。

教育長 それで、今、ワーキング会議を立ち上げ研究しており、計画では次年度検討委員会設置としています。

市長 外部委員も入れるのですか。

教育長 いまの計画では内部関係者だけです。

市長 内部だけで出来ますか。これだけ少子化となつて、空き教室があると思つて学校に行くと、空き教室がありませんと明確に返答があります。400人が在籍していた校舎に今70人で空き教室が無いわけないでしょうと問うのですが、結局ありません。何が言いたいかと申しますと、身内同士だと変な妥協案しか出てきません。もう少し、的確な計画案を作るには内部だけとかワーキングだけでは難しいかもしれませぬ。また、検討してください。

委員長 近隣を見ますと宍粟市、佐用町は統廃合が始まっています。そのあたりを参考にということも良いのではないかと思ひます。設置義務者はたつの市、教員は県費負担の教職員であり、我々が関与するのは設置義務者であるためですが、適正な規模のガイドラインはあるでしょうが、この地区にこの学校が無ければならないといったことは設置義務者が決める裁量であつて、今の学校はいろんな意味を持っています。

す。昔の設立された当初の機能だけでなく、コミュニティの場であったり、避難所の役割もありますので、教育機関であるといった一元的な部分だけでは議論できないと思います。ワーキング会議等ではいろいろな人の観点から意見を交えた上で、検討されたらどうでしょうか。

市長

他にございませんか。特に無いようですので、今までの意見を参考に、どういう方向性を持って、どういう組織でということもあろうかと思います。ただ、ここがプランを出さないと他で作れるはずがない。ぜひ、前向きな先進的な何かを投入して、新しい教育に取り組むモデル校にするとか、モデル地域にしてもらうとかそういうことも織り交ぜながら検討していただきたいと思います。

それでは、出尽くしたと思いますので、その他に入ります。連絡・協議事項はございませんか。

委員長

1年を通し、本総合教育会議は4回目となり、年度末であり新しい年度との境目であります。1年を通して総括しないといけないのですが、皆が手探りの中で立ち上がった総合教育会議ではありますが、もっともっと中身を充実した会にしていけないと、私個人の感想としては、ちょっと不十分、設立の趣旨から外れていると思います。もっともっと教育長が全面に出た、教育長のカラーが出た施策に対して議論をし、認識を深め、助言しながら、肉付けをしながら大きな方向性に進めて行くような、教育長が中心となった総合教育会議であって欲しく、我々の反省も含め、お願いしたい。この1年を通して、しっかりと自分のお立場を踏まえ、よく頑張っていたきたい。また、市長におかれましては、市長の政治活動に何ら申し上げることはありませんし、言う立場にありませんが、教育委員会に余波が来ないように、レイマンコントロールという概念に抵触する部分が昨今、見受けられますので、市長の政治活動は政治活動、その余波が教育委員会に及ばないように、教育委員会が揺らがないように、私は守らないといけませんので、そのあたりも守ってください。厳しい意見ばかりで申し訳ないですが、よろしく願います。あえて、新年度の立ち上げに向けて、臆の言葉といたします。よろしく願います。

市長

ありがとうございます。他にございませんか。それでは、無いようですので、第4回たつの市総合教育会議を終わらせていただきます。いろいろと慎重審議いただき、また積極的な御意見、激励ありがとうございます。今後ともよろしく願います。次はいつごろになりますか、また、日程調整をお願いします。

部長

ありがとうございました。次回の開催ですが、4月開催する予定で調整したいと思います。また近くになりましたら、日程調整を行って参ります。一番最初の会議で年4回と決定されましたので、4月に1回目、8月ないし9月の事業計画を作る前に2回目、それから予算審議の11月に3回目、それから2月頃に4回目の年4回という形で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

市長

これは一番最初に年4回と決めさせていただいています。

委員長

ただ、内容的に大丈夫なのかという変なのですが。

市長

この4回目は本来2月にすべきであったものがずれ込んでおりますので、次回はすごく接近しているように感じますが、回数は少ないより多い方が良いと思います。思い浮かぶ議題が今はありませんが、しかし、新年度の始まりという意味もありますので、ぜひ、よろしく願いたい。また、日程調整をお願いします。それが、5月になっても構わないと思います。

部長

それでは、日程につきましては、改めて調整いたしますのでよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

午後4時56分終了

出席者

|          |       |
|----------|-------|
| 市長       | 栗原 一  |
| 委員長      | 湯本 浩一 |
| 委員長職務代行者 | 大林 敬正 |
| 委員       | 菅野 夏子 |
| 委員       | 矢木隆一郎 |
| 教育長      | 中本 敏郎 |
| 教育管理部長   | 小谷 真也 |

教育事業部長  
企画財政部長  
教育総務課長

藤井 一重  
井上 彰悟  
森川 智司